

2017 年度（対象年度：2016） 自己点検・評価シート

基準 5	学生の受け入れ
------	---------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
503	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき、適正に管理しているか。	B	B
	①収容定員の適切な管理 < 学士課程 > ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰 ・未充足に関する対応 < 修士・博士課程 > ・収容定員に対する在籍学生数比率		

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	
503①入学定員、収容定員に対する在籍学生数比率は、学部及び研究科の責任のもと管理している。学士課程における 2016 年度における全学部の平均値は、入学定員に対する入学者数の割合は「1.02」、収容定員に対する在籍者数の割合は「1.09」であった。[503a] 入学者数については、文部科学省による定員管理厳格化に対応するため、2016 年度第 31 回部局長会において 2017 年度の定員管理にかかる運用方針について審議され承認されており、収容定員の適切な管理がなされている。[503b] < 修士・博士課程 > 2016 年度の収容定員に対する在籍学生数比率は、修士課程 59%、博士課程 56%となっており、依然として未充足状態が続いている。本問題の改善方策として、学内進学者の増加を目的に、2016 年度入学希望者を対象とした大学院学内進学奨励給付奨学金（予約採用型）を導入し（2014 年度第 5 回大学院委員会<2014.11.4>承認）、改善に向けた取組が進行していると認識している [503c] [503d]。 また、その効果検証として、学内志願者数、学内入学者数の対前年度比を基準に検証を行った（2016 年度第 4 回大学院運営委員会<2016.6.21>） [503e]。単年度の効果検証だけでは十分な分析が行えないことから、導入後 3 年間程度は、継続して検証する必要があると認識しており、選考方法など運用上の改善も検討する余地があると認識している。加えて、学内進学促進という目的に適した奨学金であるかどうか、その妥当性についても検証が必要であると認識している。	
長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの	
項目 No.	
項目 No.	
課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点	
503①	< 修士・博士課程 > 大学院学内進学奨励給付奨学金（予約採用型）の運用及び妥当性の検証。

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

＜伸長・改善の進捗状況＞

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
503①＜修士・博士課程＞	
収容定員未充足状態を改善するための方策として導入した、大学院学内進学奨励給付奨学金（予約採用型）の効果検証を引き続き実施し、その結果を踏まえて選考方法など運用上の改善の必要性について検討する。あわせて本奨学金制度の妥当性についても検証を実施する。	

＜今年度の伸長・改善計画＞

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
503①	＜修士・博士課程＞ 大学院学内進学奨励給付奨学金（予約採用型）の効果検証や選考方法の改善を行うとともに、学内進学の促進という目的に適した奨学金であるかどうか、その妥当性について検証する。

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
503	a	2016（H28）学校法人実態調査【様式 1-（1）】
503	b	2017 年度の定員管理にかかる運用方針について（提案）
503	c	大学院特別給付奨学金の見直しに伴う新たな奨学金整備について（提案）＜2014 年度第 5 回大学院委員会 資料＞
503	d	龍谷大学給付奨学生選考細則
503	e	2016（平成 28）年度 大学院学内進学奨励給付奨学金（予約採用型）による研究科への効果の検証について〈研究科まとめ〉＜2016 年度第 4 回大学院運営委員会 資料＞

Ⅱ. 評価結果

総評
503①＜学士課程＞2016 年度における全学部 of 平均値は、入学定員に対する入学者数の割合は「1.02」、収容定員に対する在籍者数の割合は「1.09」となり、適切に管理されていると評価できる。 503①＜修士・博士課程＞2016 年度の収容定員に対する在籍学生数比率は、修士課程 59%、博士課程 56%であり、依然として未充足状態が続いている。2016 年度、その改善策として入学希望者を対象とした大学院学内進学奨励給付奨学金（予約採用型）が導入された。その効果については、導入初年度となる 2016 年度では未だ明確に現れていない状況にあるが、今後は当初の目的の達成が望まれる。導入後 3 年間程度は継続して検証することとされており、選考方法など運用上の改善も検討することが肝要であろう。理工学研究科では、2016 年度第 10 回理工学研究科委員会にて修士課程において社会人入試を導入することを決定したので、今後の推移を期待したい。
長所・特色《箇条書き》
・学士課程においては、適切な入学者数の管理がなされていると判断する。
課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
・次年度も、修士・博士課程における大学院学内進学奨励給付奨学金（予約採用型）の効果を検証し、必要に応じて選考方法の改善を行うことが必要である。【留意点】